

2023年
5月15日 発行

vol.

10

発行：一般社団法人日本がん治療認定医機構

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 (一財)国際医学情報センター内

TEL: 03-5361-7105 FAX: 03-5361-7091 HP: <https://www.jbct.jp/>

がん治療認定医とサブスペシャリティ

理事 青木 大輔



がん治療認定医制度は、毎年 800 ～ 900 名程度の新規がん治療認定医を認定し、現在ではその総数は 18,000 名を超えています。毎年、認定、更新を行い、この事業はすでに 16 年目を迎えることとなりました。2020 年からの新型コロナウイルスの蔓延に際しては、教育セミナーや試験会場の分散など特段の配慮がなされ、学会等を始め社会にオンライン化が加速された結果、この制度も 2022 年からセミナーはビデオ視聴となり、computer based testing (CBT) が導入され、今後もしばらくはこの方式で資格認定が行われることになりそうです。リスクを分散することが必要な現在の社会情勢とがんを扱う医療者は全国多数に及ぶことを考えると妥当なやり方と感じています。

私の専門は婦人科腫瘍学です。主として女性生殖器のがんを扱う分野です。学会としては日本婦人科腫瘍学会がこの分野を担当しています。婦人科腫瘍という言葉はとすると何を指すのかが明確に伝わらない可能性があります。子宮頸部や体部のがん、卵巣のがんに加え外陰から続く外性器から内性器に発生するがんを取扱います。周知の如く、がんに対する薬物療法や放射線療法は近年急速に発展し、その選択肢も増え、治療成績も向上しています。このことは婦人科腫瘍領域でも同じで、とくに、卵巣がんに対する PARP 阻害薬は survival benefit を大きく向上させ、子宮頸がんに対する放射線による晩期合併症も激減しました。一方で、手術療法については、以前から婦人科腫瘍学のひとつの柱であり、最近の内視鏡下手術やロボット支援下手術も積極的に導入されつつあります。悪性腫瘍に対する手術は骨盤深部におよび解剖も複雑であるなどの理由により、子宮筋腫などの良性腫瘍の手術に比較するときわめて難易度も高く長期間の修練期間を要します。これらの修練期間と認定試験によって、日本婦人科腫瘍学会は婦人科腫瘍専門医を産婦人科領域のサブスペシャリティの専門医として認定しています。先述したように、婦人科腫瘍専門医は扱う臓器が生殖や妊娠に関わることから機能温存に特殊な配慮が必要であったり、年齢に応じて性ホルモンを産生する

程度が大きく変わることで、遺伝性腫瘍の割合が高いことなど、婦人科特有の課題を含んでおり、大変専門性が高い領域です。一方で、がんの治療には各臓器のがんに共通の基盤があり、その基盤領域も時代に応じて考え方を始め大きく進歩しているのも事実だと思います。このような共通の事項に常にキャッチアップすることは重要であることは言うまでもありません。こうした考えから、日本婦人科腫瘍学会では婦人科腫瘍専門医の認定要件の 1 つに、がん治療認定医の資格を有すること、という項目を加えています。これによって、婦人科腫瘍専門医の認定に際しては、がん治療の基盤部分を超えたより専門性の高いレベルで、婦人科特有の診断方法や課題解決に関する知識を問うことができるようになっていきます。

がん治療認定医制度が発足する前から、がん治療関連学会の日本婦人科腫瘍学会の一員としてこの制度の諸会議には出席させていただいていたので、制度発足からの推移を拝見してきました。当初は各学会が専門医を創設しているので、受験する人はいるのだろうかと思っていたことも事実ですが、蓋を開けてみると多くの方が受験され、がん治療認定医となり、現在ではその意義は浸透していると感じています。2019 年から日本婦人科腫瘍学会から推薦されて本機構の理事を拝命しました。教育セミナーの準備、認定の実務や分野が治療に限定されていることなどまだまだ課題も多いと感じています。しかし、何より多くのがん治療関連学会のサポートにより、今後もがん治療認定医機構の基盤整備と底上げという大切な役割に貢献していただくことを期待したいと思います。

がん治療認定医総数

18,009 名

がん治療認定医(歯科口腔外科)総数

635 名

2023 年 4 月 1 日現在

▼ 目 次

がん治療認定医とサブスペシャリティ	1
2022年度認定医試験報告	2
2022年度認定医審査結果報告	2
役員一覧	2
重要 2022年度より がん治療認定医試験が CBT (computer based testing) となりました	3

NEW 前年度の教育セミナー (e-learning) が 無料受講できます	3
2023年度 教育セミナー・認定医試験開催概要	4
2023年度 認定研修施設更新手続・在籍報告について	4
編集後記	4

2022 年度認定医試験報告

教育委員会

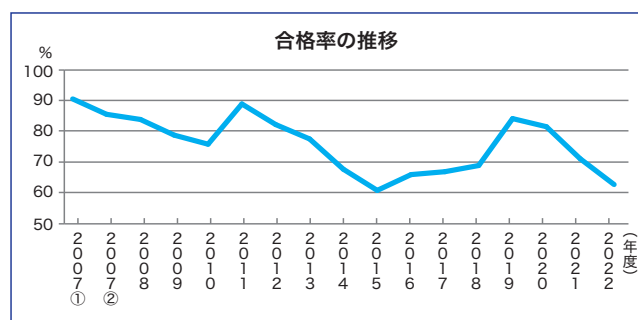
委員長 滝口 裕一



2022 年 11 月 13 日に第 17 回がん治療認定医試験が実施され、1,191 名が受験しました。今回から CBT (computer based testing) による試験になりました。全国から 1,000 名を軽く超える先生方に受験していただくこの試験を 1 箇所で行える会場は限られており、受験なさる先生方には多大なご不便をお掛けしていましたが、CBT にすることにより受験者のお近くの会場を選べる利便性を提供できたと思います。一方で初めてのことで運営面において不行き届きも多く、一部の先生に多大なご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び致します。この経験を活かして来年からはさらに多くの先生に利便性を感じていただけるよう心がけたいと思います。内容的には例年通りテキストの第 I 部 (がん治療に求められる基盤的知識) と第 II 部 (各種悪性疾患の診断と治療の基本原則) から 1:1 の問題数、配点でした。合格者は 746 名 (医師 707 名、歯科医師 39 名)、合格率 62.64% でした (図 1 参照)。合格率は過去 2 番目に低い結果となりました。等価評価に基づいた合否判定をしていますので、問題の難易度の違いによる年度間の不公平がでないようにしております。

すが、新型コロナ対応など先生方の診療環境の影響があったのかも知れません。そのような厳しい日常診療にもかかわらず、好成绩で合格された先生方の日頃の研鑽に深く敬意を表したいと思います。

本機構では試験問題の質の向上を図るため専門家も交えて多面的な検証を行い品質管理の向上に努めています。受験者の皆様におかれましては、本認定医試験を今一度ご自身のがん治療に関する基盤的知識の点検の機会ととらえていただき奮ってのご参加を期待いたします。



2022 年度認定医および認定研修施設審査結果報告

資格審査委員会

委員長 檜山 英三



2022 年度のがん治療認定医認定は 680 名の新規認定と、猶予を含めて 4,840 名の更新認定 (1 回目 783 名、2 回目 1,210 名、3 回目 2,847 名) を行いました。コロナ禍の中で昨年同様に e-learning による教育セミナーと、今回から CBT 形式の認定医試験を踏まえての新規認定となりました。新規認定医数はやや減少しましたが、更新認定は、今回初めて第 3 回目の更新認定が行われました。がん治療認定としてすでに 15 年診療されている医師が全国で約 3,000 名に至ったことは、この認定医が本邦のがん診療を支えている証であり、今後、がん治療認定医制度が日本のがん診療を支える大きな柱になっていくためにも質の担保された認定審査に心がけたいと考えます。

認定研修施設の審査では、新規申請 9 件すべてを合格と

し、一方、更新は 746 施設中 8 件が不合格で、がん診療の変革に伴う審査基準の見直しやがん診療の集約化に伴う審査となりました。本機構の研修施設が、認定医の養成のみならず、質の高いがん診療を提供できる施設として位置づけられ、全国約 18,000 人の認定医とともに日常的ながん治療水準向上に寄与し、本機構の目指すがん診療の均てん化の方向に着実に進んでるものと考えています。

2022 年度がん治療認定医審査結果

新規合格者数 680 名

更新合格者数 4,840 名

役員一覧

- 理事長** 大江 裕一郎 (国立がん研究センター中央病院)
- 副理事長** 藤 也寸志 (九州がんセンター)、土岐 祐一郎 (大阪大学)
- 理事** 青木 大輔 (慶應義塾大学)、井本 滋 (杏林大学)、大津 敦 (国立がん研究センター東病院)、影山 幸雄 (埼玉がんセンター)、調 憲 (群馬大学)、滝口 裕一 (千葉大学)、田村 研治 (島根大学)、土原 一哉 (国立がん研究センター先端医療開発センター)、野々村 祝夫 (大阪大学)、馬場 英司 (九州大学)、馬場 秀夫 (熊本大学)、張替 秀郎 (東北大学)、檜山 英三 (広島大学)、藤原 俊義 (岡山大学)、三森 功士 (九州大学病院別府病院)、村上 善則 (東京大学医科学研究所)
- 監事** 清水 研 (がん研有明病院)、西田 俊朗 (大阪病院)

重要

2022 年度より がん治療認定医試験が CBT (computer based testing) となりました



昨年度、CBT (computer based testing) による試験を全国各地計 107 会場にて実施いたしました (会場数は右図参照)。2023 年度も CBT にて実施いたします。

試験会場については、各会場、先着順の予約となりますので、優先受付期間内にお早めにお申し込みください。

※詳細は本機構ホームページをご確認ください。

(参考) 2022 年度試験会場数一覧

都道府県名	会場数	都道府県名	会場数	都道府県名	会場数
北海道	3	石川県	1	岡山県	1
青森県	1	福井県	1	広島県	2
岩手県	1	山梨県	1	山口県	1
宮城県	2	長野県	2	徳島県	1
秋田県	1	岐阜県	1	香川県	1
山形県	1	静岡県	3	愛媛県	2
福島県	1	愛知県	5	高知県	1
茨城県	1	三重県	1	福岡県	6
栃木県	1	滋賀県	1	佐賀県	0
群馬県	1	京都府	2	長崎県	2
埼玉県	6	大阪府	8	熊本県	2
千葉県	4	兵庫県	3	大分県	1
東京都	16	奈良県	2	宮崎県	1
神奈川県	8	和歌山県	1	鹿児島県	1
新潟県	2	鳥取県	1	沖縄県	1
富山県	1	島根県	1	計	107

1. お申し込みから受験までのながれ (定員 1,400 名)

7 月 5 日(水)～7 月 28 日(金)

① 申込とお支払

※定員 1,400 名

- ※本機構ホームページよりお申しください。(教育セミナーの受講も希望される方は、併せてお申しください。)
- ※申込受付は先着順とし、**定員になり次第、締め切ります。**

9 月 6 日(水)～9 月 20 日(水) (予定)

② CBT 受験会場予約 (先着順です)

※ CBT 運営業者による「JBCT 専用ページ」にて行います

- ※予約方法については、メールにてお知らせいたします。
- ※**ご希望の会場がある場合には、お早めにご予約ください。**(各会場先着順とし、定員になり次第、締め切ります。)
- ※試験実施会場については、「JBCT 専用ページ」をご確認ください。

11 月 5 日(日)

③ 受験

※予約会場にて

- ※試験日当日の持ち物 (本人確認書類) および注意事項は「JBCT 専用ページ」にてご確認ください。

2. CBT の当日のながれ

① 受付

試験の開始時間 30 分～15 分前までの間に試験会場に来場の上、受付手続きを行います。

② 本人確認

受付では写真付本人確認書類による本人確認、検温を行います。

③ 荷物の収納

写真付本人確認書類、受験規定以外の全ての荷物を会場備付けの鍵付ロッカーに収納します。

⑥ 試験開始

モニターに表示された試験名、受験者名を確認して、順次試験を開始します。

⑤ 入室

説明終了後、試験監督員の案内に従って入室します。

④ 入室前説明

待合室にて、試験監督員が入室前の説明を行い、受験者に番号札ケースを配布します。



〈がん治療認定医、がん治療認定医(歯科口腔外科) 限定〉
前年度の教育セミナー (e-learning) が無料受講できます

がん治療の知識のブラッシュアップを随時行っていただけるよう、がん治療認定医／がん治療認定医(歯科口腔外科)の方へ、当機構の教育セミナーを配信します。

◆受講期間：2023 年 10 月～2024 年 3 月

◆費用：無料

◆内容：2022 年度教育セミナーおよび
テキスト第 16 版(PDF) ※テストはありません。
(今後毎年、前年度のセミナーを配信していきます。)

◆受講方法：ご自身の MyPage よりアクセスしてください。

◆注意事項：・更新猶予期間中は、受講はできません。

・修了証は発行されません。

・がん治療認定医の更新の申請資格としては使用できません。

※詳細は、2023 年 9 月にご登録のメールアドレス宛にお送りしますのでご確認ください。

2023 年度 教育セミナー開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2023年10月20日(金)正午
～11月4日(土)24時

開催方法 Webによる開催

申込期間 7月5日(水)～7月28日(金)
本機構 HP よりお申込のうえ、所定の金額をご入金ください。

定員 1,400名

費用 教育セミナーのみ 14,410 円
認定医試験のみ 14,410 円
セミナー・試験両方 25,410 円
※いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込

! テキストは、8月末に送付いたします。
必ず事前に予習をいたしうて、受講・受験に臨んでください。

●教育セミナー 講義内容一覧

Ⅰ：がん治療に求められる基盤的知識

1. がんの生物学・分子生物学 (土原 一哉・国立がん研究センター)
2. 遺伝性腫瘍 (横井 左奈・千葉県がんセンター)
3. 腫瘍免疫学 (北野 滋久・がん研究会有明病院)
4. がんの疫学・がん検診 (井上 真奈美・国立がん研究センター)
5. 臨床研究と統計学 (水澤 純基・国立がん研究センター)
6. 病理学 (分子病理学を含む) (牛久 綾・東京大学)
7. 画像診断学 (遠藤 正浩・静岡がんセンター)
8. 外科治療学概論 (調 憲・群馬大学)
9. 化学療法概論 (小野 麻紀子・がん研究会有明病院)
10. 分子標的薬概論 (内藤 陽一・国立がん研究センター東病院)
11. 免疫療法概論 (各務 博・埼玉医科大学国際医療センター)
12. 放射線療法概論 (生島 仁史・徳島大学)
13. 緩和医療特論 (松本 禎久・がん研究会有明病院)
14. 精神腫瘍学 (サイコオンコロジ) (和田 信・大阪国際がんセンター)
15. がん救急 (岡本 渉・広島大学病院)
16. がんの診療と倫理 (野口 瑛美・医薬品医療機器総合機構)

Ⅱ：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

1. 脳腫瘍 (杉山 一彦・陽光会光中央病院)
2. 頭頸部がん (田原 信・国立がん研究センター東病院)
3. 食道がん (藤 也寸志・九州がんセンター)
4. 胃がん (坂東 英明・国立がん研究センター東病院)
5. 大腸がん (高島 淳生・国立がん研究センター中央病院)
6. 肝がん (森口 理久・京都府立医科大学)
7. 胆道がん・膵がん (上野 誠・神奈川県立がんセンター)
8. 肺がん (津端 由佳里・島根大学)
9. 乳がん (高野 利実・がん研究会有明病院)
10. 婦人科がん (川名 敬・日本大学)
11. 骨・軟部腫瘍 (米本 司・千葉県がんセンター)
12. 泌尿器科腫瘍 (北村 寛・富山大学)
13. 皮膚がん (西澤 綾・都立駒込病院)
14. 白血病 (堺田 恵美子・千葉大学)
15. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫 (榎方 理・国立がん研究センター中央病院)
16. 小児がん (加藤 元博・東京大学)

2023 年度 認定医試験開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2023年11月5日(日)
受付時間 12時30分～12時45分
試験時間 13時00分～14時25分(85分)

開催方法 CBT(computer based testing)

開催会場 各CBT会場(全国47都道府県)
※開催しない県・会場が発生する場合があります。

申込期間 7月5日(水)～7月28日(金)

**受験会場
予約期間** 9月6日(水)～9月20日(水)
本機構 HP よりお申込のうえ、左記教育セミナー開催概要
に記載の所定の金額をご入金ください。その後、受験会場
予約期間に会場予約を行ってください。

定員 1,400名 (※ただし会場毎に定員あり)

認定研修施設

2023年度 更新手続・在籍報告について

更新手続

対象施設 2019年4月1日付で認定または更新認定された施設で、
更新を希望される施設

更新手続 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて
「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。
(詳細は、HP「認定研修施設更新申請」をご確認ください。)

在籍報告

対象施設 更新手続対象(上記)以外の施設

提出方法 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて
「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。
(詳細は、HP「認定研修施設 在籍報告」をご確認ください。)

! 認定研修施設の審査基準をご確認のうえ、更新手続
または在籍報告を行ってください。
<https://www.jbct.jp/facilities/qualification.html>



編集後記

このたび、JBCT ニュース第 10 号を発刊いたしました。
コロナウイルス感染症も 5 類への道筋が見え、がん診療も
従来の形に戻ってきたように思います。コロナ感染症が後
押しする形で本機構の認定試験は CBT となりましたが、大
きな混乱なく実施することができました。本号でも今回の
CBT の概要を報告させていただいています。本機構も設立
後 16 年がたち、試験やセミナーの形態は変わってきてい
るものの、認定医数は順調に増え、18,000 人を超えるまで
になりました。今後も、目標とするがん治療の均てん化が
達成できるよう努めてまいりますので、引き続きよろしく
ご支援の程、お願い申し上げます。

(広報・渉外委員会委員長 張替秀郎)